

平成30年4月8日(日)

老球の細道404号

コーチとファッション

会津バスケットボール協会 室井 富仁

スポーツ用品メーカー大手のミズノがランニングシューズの開発戦略を変更することを発表した。今までは競技者用に機能性を重視してきたが、今後は「見た目」にも力を入れるという。このような流れはアスレチック(運動)とレジャー(娯楽)を組み合わせた「アスレジャー」用品として流行しているようだ。スポーツ用品も今まで以上におしゃれな要素を取り入れないと売れないということだろう。

今冬の平昌冬季五輪においても開会式の各国のユニフォームを見るとおしゃれモード満載であった。スポーツ関係のブランドのみならず、世界的に有名なファッションブランド社製品が目立っていた。トンガの旗手の上半身裸は論外であるが、アメリカ選手団のラルフローレン社のユニフォームはファッション性抜群で、スポーツ以外でも人目を引く逸品だったと評判であった。機能的にも3段階の温度調節ができる優れものだという。私が国体に選手、コーチとして参加した頃に福島県から支給される県選手団のユニフォームは、残念ながら大会以外でデートや飲み会に来ていこうと思ったことは一度もなかった。無料で支給されていて申し訳ないが……。

この他に目立ったところでは、フランスがワニのロゴマークの「ラコステ」ブランド、イタリアが東京の小学校制服でも話題になった「アルマーニ」のブランドであった。私はこの二つのブランドには昔から思い入れがあった。夏のコーチングウェアには好んでラコステのポロシャツを着た。また、アルマーニは当時憧れていたレイカースのH・Cパット・ライリー(現マイアミ・ヒートG・M)がアルマーニのスーツで話題を呼んでいたのに真似しようとしたが値段が一桁違っていた。一桁下げたオーダースーツで、周囲には「アルマーニ2」ではなく「アルマーニ1」「アルマーニ3」と言いながら自己満足していた。

教師やコーチというのは多くの人から見られる仕事である。毎日同じ格好、同じ服装、同じ話では飽きられてしまう。指導する相手に常に魅力ある存在であるためにはファッションも重要なアイテムだと思っている。私が知る限り、日本、世界のトップコーチは皆おしゃれである。練習でコートに立つときの短パン、ポロシャツ、試合でベンチに立つときのスーツ姿は皆個性的でカッコよい。

極論を言うとコーチも芸能人と同じように常に新しいファッションでコートに立ちたい。大好きな歌手「藤あや子」が毎回同じ服装で歌ったのでは魅力が半減してしまう。コーチもプレイヤーの前に変化に富んだファッションで現われ指導することで、プレイヤーにも新鮮な印象を与え、練習に対するモチベーションも上がるのではないだろうか。

また、ファッションはチェンジングアクション(気分転換、切り替え)にも役に立つ。私が現役の頃は、バスケットボールと体育授業以外はスーツで過ごし、体育授業は授業用ジャージ、バスケットボール指導はコーチウェアと常にお色直しをしながら気持ちの切り替えをして選手に対峙していた。特に授業から部活動への切り替えは至難の時間帯だった。

コーチには3つの“ション”が大切だと言われる①パッション(情熱)②ミッション(使命感)③アクション(行動力)。私はそこに④ファッション(見た目)を是非仲間入りさせたい。服装はその人の心を表し、その人の心を整える。